

(8) 初期臨床研修の方式別(単位：%)

a) 単純集計

《研修方式》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答
総合診療(478名)	14.4	51.7	26.4	0.6	2.1	2.9	1.9
内科ストレート(156名)	10.3	55.8	26.9	1.9	3.2	1.3	0.6
外科ストレート(110名)	2.7	64.5	22.7	1.8	1.8	3.6	2.7
他科ストレート(224名)	5.8	70.1	17.0	3.1	1.8	1.3	0.9
その他(84名)	4.8	60.7	15.5	2.4	2.4	9.5	4.8
受けていない(143名)	7.0	54.5	21.7	2.8	4.9	0.7	8.4
無回答(45名)	4.4	42.2	11.1	0.0	2.2	0.0	40.0
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	4.0

①「総合診療指向のもの」(1)vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について各方式間で分析

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
内科ストレート(155名)	16	139

$\chi^2=1.907$
(両側検定) $P=0.17942$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
外科ストレート(107名)	3	104

$\chi^2=11.30$
(両側検定) $P=0.00113$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
他科ストレート(222名)	13	209

$\chi^2=11.30$
(両側検定) $P=0.00096$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
全ストレート(484名)	32	452

$\chi^2=16.50$
(両側検定) $P=0.00005$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
その他(80名)	4	76

$\chi^2=5.591$
(両側検定) $P=0.01918$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=4.488$
(両側検定) $P=0.03990$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
内科ストレート(155名)	16	139
外科ストレート(107名)	3	104

$\chi^2=5.321$
(両側検定) $P=0.02735$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
内科ストレート(155名)	16	139
他科ストレート(222名)	13	209

$\chi^2=2.564$
 (両側検定) $P=0.11940$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
内科ストレート(155名)	16	139
その他(80名)	4	76

$\chi^2=1.920$
 (両側検定) $P=0.21967$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
内科ストレート(155名)	16	139
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=0.621$
 (両側検定) $P=0.53697$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
外科ストレート(107名)	3	104
他科ストレート(222名)	13	209

$\chi^2=1.454$
 (両側検定) $P=0.28343$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
外科ストレート(107名)	3	104
その他(80名)	4	76

$\chi^2=0.613$
 (両側検定) $P=0.46339$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
外科ストレート(107名)	3	104
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=2.661$
 (両側検定) $P=0.15125$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
他科ストレート(222名)	13	209
その他(80名)	4	76

$\chi^2=0.081$
 (両側検定) $P=0.79317$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
他科ストレート(222名)	13	209
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=0.427$
 (両側検定) $P=0.65611$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
その他(80名)	4	76
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=0.556$
 (両側検定) $P=0.57483$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

総合診療方式と外科系ストレート、他科ストレート、全てのストレート、その他、研修を受けていないの間、内科系ストレートと外科系ストレートの間で有意な差があり、総合診療方式と内科系ストレートで研修した医師において、総合診療を指向する割合が有意に高かった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
内科ストレート(155名)	42	113

$\chi^2=0.003$
(両側検定) P = 1.0000 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
外科ストレート(107名)	25	82

$\chi^2=0.552$
(両側検定) P = 0.46916 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
他科ストレート(222名)	38	184

$\chi^2=7.910$
(両側検定) P = 0.00539 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
全ストレート(484名)	105	379

$\chi^2=3.468$
(両側検定) P = 0.06958 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
その他(80名)	13	67

$\chi^2=4.073$
(両側検定) P = 0.05092 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=0.543$
(両側検定) P = 0.50122 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
内科ストレート(155名)	42	113
外科ストレート(107名)	25	82

$\chi^2=0.463$
(両側検定) P = 0.56518 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
内科ストレート(155名)	42	113
他科ストレート(222名)	38	184

$\chi^2=5.438$
(両側検定) P = 0.02162 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
内科ストレート(155名)	42	113
その他(80名)	13	67

$\chi^2=3.463$
(両側検定) P = 0.07407 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
内科ストレート(155名)	42	113
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=0.440$
(両側検定) P = 0.58643 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
外科ストレート(107名)	3	104
他科ストレート(222名)	13	209

$\chi^2=1.820$
(両側検定) P = 0.18163 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
外科ストレート(107名)	25	82
その他(80名)	13	67

$\chi^2=1.431$
(両側検定) P = 0.27266 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
外科ストレート(107名)	25	82
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=0.003$
(両側検定) P = 1.0000 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
他科ストレート(222名)	38	184
その他(80名)	13	67

$\chi^2=0.031$
(両側検定) P = 0.86526 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
他科ストレート(224名)	38	184
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=2.246$
(両側検定) P = 0.16448 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
その他(80名)	13	67
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=1.654$
(両側検定) P = 0.22468 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

「将来、総合診療を行っても良い」との回答については、総合診療方式と他科ストレートの間にのみ有意な差が認められ、総合診療方式で研修をしたものが多く回答していた。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《出身大学》	1-3の合計	4と5の合計	6. その他	無回答
	1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない 5. 理解できない		[数(%)]
総合診療(478名)	92.5	2.7	2.9	9(1.9)
内科ストレート(156名)	92.9	5.1	1.3	1(0.6)
外科ストレート(110名)	90.0	3.6	3.6	3(2.7)
他科ストレート(224名)	92.9	4.9	1.3	2(0.9)
その他(84名)	81.0	4.8	9.5	4(4.8)
受けていない(143名)	83.2	7.7	0.7	12(8.4)
無回答(45名)	57.8	2.2	0.0	18(40.0)
全体(1240名)	89.3	4.2	2.6	49(4.0)

③ 「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
内科ストレート(153名)	145	8

$\chi^2=1.931$
(両側検定) P = 0.19868 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
外科ストレート(103名)	99	4

$\chi^2=0.300$

(両側検定) P = 0.7501 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
他科ストレート(219名)	208	11

$\chi^2=2.019$

(両側検定) P = 0.18321 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
全ストレート(475名)	452	23

$\chi^2=2.461$

(両側検定) P = 0.12822 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
その他(72名)	68	4

$\chi^2=1.450$

(両側検定) P = 0.27033 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(469名)	442	13
受けていない(130名)	119	11

$\chi^2=8.072$

(両側検定) P = 0.00753 有意水準1%で有意 [Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
内科ストレート(153名)	145	8
外科ストレート(103名)	99	4

$\chi^2=0.249$

(両側検定) P = 0.76704 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
内科ストレート(153名)	145	8
他科ストレート(219名)	208	11

$\chi^2=0.008$

(両側検定) P = 1.0000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
内科ストレート(153名)	145	8
その他(72名)	68	4

$\chi^2=0.010$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
内科ストレート(153名)	145	8
受けていない(130名)	119	11

$\chi^2=1.173$

(両側検定) P = 0.34294 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
外科ストレート(103名)	99	4
他科ストレート(219名)	208	11

$\chi^2=0.205$

(両側検定) P = 0.78183 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
外科ストレート(103名)	99	4
その他(72名)	68	4

$\chi^2=0.272$

(両側検定) P = 0.71851 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
外科ストレート(103名)	99	4
受けていない(130名)	119	11

$$\chi^2=2.000$$

(両側検定) P = 0.18700 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
他科ストレート(219名)	208	11
その他(72名)	68	4

$$\chi^2=0.031$$

(両側検定) P = 1.0000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
他科ストレート(219名)	208	11
受けていない(130名)	119	11

$$\chi^2=1.633$$

(両側検定) P = 0.25466 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
その他(72名)	68	4
受けていない(130名)	119	11

$$\chi^2=0.569$$

(両側検定) P = 0.58031 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

賛同できる vs. 賛同・理解できないについては、総合診療方式と研修を受けていないの間でのみ、有意差が認められた。

6. へき地勤務において診療面で困ること(へき地勤務経験の有無別)

a) 3つまで回答の合計[%]

《項目》	経験あり (548名)	経験なし (677名)	全体 (1240名)	あり/なし	P値
休みがとれないこと	41.8	39.1	39.8	1.0676	0.34948
夜間や休日の依頼への対応	37.4	34.6	35.5	1.0823	0.30889
医療技術の研修ができないこと	29.0	25.0	26.6	1.1623	0.11948
専門外の疾患等にも対応しなければいけないこと	45.4	61.4	54.1	0.7395	<0.00001
診療機器が整っていないこと	18.1	27.5	23.0	0.6576	0.00014
学会に参加できないこと	14.8	10.9	12.5	1.3523	0.04697
患者を受け入れる後方病院がないこと	21.2	31.0	26.5	0.6824	0.00012
後任がいないこと	17.8	20.0	19.0	0.8897	0.38014
スタッフとの人間関係	5.7	3.3	4.4	1.7221	0.06818
行政(役場)との良好な関係が築けないこと	2.9	0.6	1.6	4.9416	0.00142
学位取得を含め研究ができないこと	12.6	9.5	10.7	1.3319	0.08026
専門医取得の研修ができないこと	19.2	11.8	15.0	1.6215	0.00040
やりがいがあると思えないこと	2.6	3.0	2.7	0.8648	0.72882
その他	3.8	2.5	3.1	1.5261	0.18972

全体(1240名)には、へき地勤務経験についての無回答(15名)を含む。

3個までの複数回答では、へき地における勤務経験のない医師は、経験のある医師にくらべて、「専門外の疾患等への対応」「診療機器が整っていないこと」「患者を受け入れる後方病院がないこと」をあげる割合が有意に高く、経験を持つ医師は「学会への参加」「行政(役場)との良好な関係」をあげるものが有意に多かった。

b) 最重要と回答したものの割合[%]

《項目》	経験 あり (548名)	経験 なし (677名)	全体 (1240 名)	あり/なし	P値
休みがとれないこと	0.4	1.2	0.8	0.3089	0.19963
夜間や休日の依頼への対応	0.5	0.6	0.6	0.9266	1.00000
医療技術の研修ができないこと	3.1	4.1	3.6	0.7501	0.36322
専門外の疾患等にも対応しなければいけないこと	10.8	11.4	11.0	0.9466	0.78404
診療機器が整っていないこと	6.8	9.0	7.9	0.7493	0.16860
学会に参加できないこと	6.6	4.1	5.2	1.5884	0.07006
患者を受け入れる後方病院がないこと	11.5	17.0	14.4	0.6768	0.00709
後任がないこと	10.1	14.4	12.5	0.7017	0.02909
スタッフとの人間関係	3.2	3.1	3.1	1.0563	0.87132
行政(役場)との良好な関係が築けないこと	2.4	0.4	1.3	5.3534	0.00407
学位取得を含め研究ができないこと	6.2	5.6	5.8	1.1054	0.71448
専門医取得の研修ができないこと	15.0	10.8	12.6	1.3877	0.03079
やりがいがあると思えないこと	2.4	2.5	2.4	0.9447	1.00000
その他	2.6	1.6	2.0	1.5723	0.31046

全体(1240名)には、へき地勤務経験についての無回答(15名)を含む。

最重要とした項目では、へき地における勤務経験のない医師は、経験のある医師にくらべて、「患者を受け入れる後方病院がないこと」「後任がないこと」をあげる割合が有意に高く、経験を持つ医師は「行政(役場)との良好な関係」「専門医取得の研修ができないこと」をあげるものが有意に多かった。

7. へき地勤務において生活面で困ること(へき地勤務経験の有無別) 全体には、無回答(15名)を含む。

a) 3つまで回答の合計[%]

《項目》	経験 あり (548名)	経験 なし (677名)	全体 (1240 名)	あり/なし	P値
交通が不便なこと	58.6	57.0	57.3	1.0274	0.60089
日常生活(買い物、外食、テレビ等)が不便なこと	37.4	40.0	38.5	0.9345	0.37663
気象条件がきびしいこと	7.1	6.9	6.9	1.0251	0.91094
子どもの教育が十分にできないこと	45.4	46.5	45.7	0.9766	0.72953
自由な時間が持てないこと	21.0	22.3	21.7	0.9409	0.62575
文化施設(映画館やスポーツ施設等)がないこと	15.1	10.0	12.3	1.5079	0.00858
家族や自分の病気が心配なこと	10.9	13.4	12.2	0.8146	0.19121
深夜まで開いている店がないこと	6.6	4.4	5.3	1.4825	0.12615
親のことが心配なこと	10.2	12.7	11.6	0.8044	0.17975
充実した余暇が過ごせないこと	9.5	8.0	8.5	1.1896	0.35925
単身赴任をせざるを得ないこと	17.2	19.9	18.5	0.8602	0.23833
冠婚葬祭などの交際に出席できないこと	4.2	3.5	4.0	1.1839	0.65405
物価が高いこと	2.2	0.4	1.2	4.9416	0.00742
文化的に違和感があること	3.5	3.5	3.5	0.978	1.00000
保育環境が整備されていないこと	5.1	6.8	6.0	0.752	0.22999
地域の生活に馴染めないこと	2.6	6.6	4.8	0.3843	0.00111
住民からよそ者扱いされること	4.2	4.0	4.0	1.0524	0.88520
方言が理解できないこと	1.5	1.6	1.5	0.8985	1.00000
その他	1.3	1.5	1.4	0.8648	0.81122

全体(1240名)には、へき地勤務経験についての無回答(15名)を含む。

3個までの複数回答では、へき地における勤務経験のない医師は、経験のある医師にくらべて、「地域の生活に馴染めないこと」をあげる割合が有意に高く、経験を持つ医師は「文化施設(映画館やスポーツ施設等)がないこと」「物価が高いこと」をあげるものが有意に多かった。

b) 最重要と回答したものの割合[%]

《項目》	経験あり (548名)	経験なし (677名)	全体 (1240名)	あり/なし	P値
交通が不便なこと	20.8	18.9	19.6	1.1003	0.42762
日常生活(買い物、外食、テレビ等)が不便なこと	9.9	9.3	9.4	1.0589	0.76982
気象条件がきびしいこと	1.6	0.6	1.0	2.7797	0.09369
子どもの教育が十分にできないこと	22.1	22.7	22.3	0.9707	0.78353
自由な時間が持てないこと	7.7	9.6	8.7	0.7983	0.26315
文化施設(映画館やスポーツ施設等)がないこと	1.6	1.2	1.5	1.3898	0.62474
家族や自分の病気が心配なこと	3.6	4.4	4.0	0.8236	0.56226
深夜まで開いている店がないこと	0.9	0.7	0.8	1.2354	0.75951
親のことが心配なこと	3.1	4.1	3.7	0.7501	0.36322
充実した余暇が過ごせないこと	2.2	2.8	2.5	0.7803	0.58459
単身赴任をせざるを得ないこと	6.8	7.5	7.1	0.8963	0.65672
冠婚葬祭などの交際に出席できないこと	1.1	0.4	0.8	2.4708	0.31321
物価が高いこと	0.2	0.0	0.1	***	0.44735
文化的に違和感があること	1.1	1.0	1.0	1.0589	1.00000
保育環境が整備されていないこと	1.1	1.6	1.4	0.6739	0.47235
地域の生活に馴染めないこと	0.4	2.2	1.4	0.1647	0.00577
住民からよそ者扱いされること	0.9	0.7	0.8	1.2354	0.75951
方言が理解できないこと	0.4	0.3	0.3	1.2354	1.00000
その他	0.9	0.9	0.9	1.0295	1.00000

最重要とした項目では、経験のある医師にくらべて、へき地における勤務経験のない医師が「地域の生活に馴染めないこと」をあげる割合が有意に高かった他は有意な差は認められなかった。

へき地勤務において生活面で困ること(年齢別)

a) 3つまで回答の合計 [%]

《項目》	20代	30代	40代	50代	60代
交通が不便なこと	55.2	61.1	54.0	56.5	63.0
日常生活(買い物、外食、テレビ等)が不便なこと	44.4	40.5	32.7	29.6	40.7
気象条件がきびしいこと	6.5	7.1	6.3	6.5	11.1
子どもの教育が十分にできないこと	39.5	41.4	58.0	53.7	37.0
自由な時間が持てないこと	21.8	25.6	17.0	15.7	29.6
文化施設(映画館やスポーツ施設等)がないこと	16.9	11.6	11.3	12.0	3.7
家族や自分の病気が心配なこと	6.9	9.8	17.3	22.2	18.5
深夜まで開いている店がないこと	9.3	6.7	1.7	1.9	0.0
親のことが心配なこと	12.9	10.2	12.0	15.7	11.1
充実した余暇が過ごせないこと	10.9	10.2	6.0	4.6	3.7
単身赴任をせざるを得ないこと	12.5	14.6	23.7	34.3	37.0
冠婚葬祭などの交際に出席できないこと	8.1	3.3	2.7	1.9	0.0
物価が高いこと	0.4	1.5	1.7	0.0	0.0
文化的に違和感があること	1.6	3.9	4.7	0.9	7.4
保育環境が整備されていないこと	6.5	7.7	5.0	1.9	0.0
地域の生活に馴染めないこと	5.6	4.8	3.7	5.6	3.7
住民からよそ者扱いされること	4.0	4.2	4.7	0.9	3.7
方言が理解できないこと	2.8	1.7	0.7	0.0	0.0
その他	1.6	1.2	1.7	0.9	0.0

b) 最重要と回答したものの割合 [%]

交通が不便なこと	18.1	21.0	16.3	22.2	29.6
日常生活(買い物、外食、テレビ等)が不便なこと	14.9	9.4	7.3	4.6	0.0
気象条件がきびしいこと	0.4	1.7	0.3	1.9	0.0
子どもの教育が十分にできないこと	13.7	22.2	32.3	23.1	3.7
自由な時間が持てないこと	8.9	10.4	6.3	7.4	11.1
文化施設(映画館やスポーツ施設等)がないこと	1.6	1.5	1.3	1.9	0.0
家族や自分の病気が心配なこと	2.0	3.1	6.0	7.4	11.1
深夜まで開いている店がないこと	1.6	1.2	0.0	0.0	0.0
親のことが心配なこと	5.2	3.5	2.7	3.7	3.7
充実した余暇が過ごせないこと	4.0	2.9	2.0	0.0	0.0
単身赴任をせざるを得ないこと	1.6	6.4	10.0	13.9	14.8
冠婚葬祭などの交際に出席できないこと	1.2	1.2	0.3	0.0	0.0
物価が高いこと	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0
文化的に違和感があること	0.8	1.2	1.3	0.0	3.7
保育環境が整備されていないこと	1.6	2.3	0.3	0.0	0.0
地域の生活に馴染めないこと	2.4	0.8	1.3	1.9	0.0
住民からよそ者扱いされること	1.6	0.8	0.3	0.9	0.0
方言が理解できないこと	0.8	0.4	0.0	0.0	0.0
その他	1.2	0.4	1.3	0.9	0.0

日常生活(買い物、外食、テレビ等)が不便なこと

《年齢》	選択	選択せず
20代(248名)	110	138
40代(300名)	98	202

(両側検定) $P = 0.00607$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《年齢》	選択	選択せず
20代(248名)	110	138
50代(108名)	32	76

(両側検定) $P = 0.00969$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《年齢》	選択	選択せず
30代(519名)	210	309
40代(300名)	98	202

(両側検定) $P = 0.02988$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《年齢》	選択	選択せず
30代(519名)	210	309
50代(108名)	32	76

(両側検定) $P = 0.03901$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

「日常生活の不便」は20代・30代の医師が、40代・50代の医師にくらべてあげる割合が有意に高かった。

子どもの教育が十分にできないこと

《年齢》	選択	選択せず
20代(248名)	98	150
40代(300名)	174	126

(両側検定) $P = 0.00002$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《年齢》	選択	選択せず
20代(248名)	98	150
50代(108名)	58	50

(両側検定) $P = 0.01482$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《年齢》	選択	選択せず
30代(519名)	215	304
40代(300名)	174	126

(両側検定) $P < 0.00001$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《年齢》	選択	選択せず
30代(519名)	215	304
50代(108名)	58	50

(両側検定) $P = 0.02479$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《年齢》	選択	選択せず
40代(300名)	174	126
60代(27名)	10	17

(両側検定) $P = 0.04292$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

一方、「子どもの教育」については、40代・50代の医師が20代・30代・60代の医師にくらべて、有意に多く回答していた。

自由な時間が持てないこと

《年齢》	選択	選択せず
30代(519名)	133	386
40代(300名)	51	249

(両側検定) $P = 0.00533$ 有意水準 1% で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《年齢》	選択	選択せず
30代(519名)	133	386
50代(108名)	17	91

(両側検定) $P = 0.03447$ 有意水準 5% で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

「自由な時間」は 30 代の医師が 40 代・50 代にくらべてあげる医師が有意に多かった。

保育環境が整備されていないこと

《年齢》	選択	選択せず
30代(519名)	40	479
50代(108名)	2	106

(両側検定) $P = 0.03158$ 有意水準 5% で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

「保育環境」については、30 代の医師が 50 代の医師にくらべて有意に高い割合で回答していた。

8. へき地赴任に関する意思

へき地での勤務で困ると思われる項目(診療面・生活面)について、解決の目途が立ったとしたら、へき地に赴任しても良いと思われませんか(赴任地、赴任期間は問いません)。1つお選びください。

1. 困難な事柄が解決しなかったとしても、赴任したいと思う。
2. 積極的に赴任したいと思う。
3. 上記以外の課題が解決したら、赴任しても良い。
4. あまり赴任したくない。
5. 絶対に赴任したくない。
6. わからない。

(1) 勤務施設別 [%]

《勤務施設別》	1. 解決しなくとも赴任したい(意欲的)	2. 積極的に赴任したいと思う	3. 上記以外の課題が解決したら、良い	1-3. (意欲的+肯定的)	4. あまり赴任したくない	5. 絶対に赴任したくない	4+5. (消極的)	6. わからない	無回答
A大学附属病院(242名)	2.9	7.4	27.7	38.0	40.5	14.5	55.0	5.0	2.1
B臨床研修病院(144名)	6.3	9.0	27.8	43.1	37.5	11.8	49.3	6.9	0.7
C臨床研修病院(189名)	4.8	13.2	37.6	55.6	29.6	8.5	38.1	5.8	0.5
D大学附属病院(235名)	5.5	6.0	35.7	47.2	35.7	8.9	44.7	6.8	1.3
E大学附属病院(407名)	4.7	9.1	30.2	44.0	32.9	12.5	45.5	9.1	1.5
無回答(23名)	4.3	0.0	26.1	30.4	26.1	17.4	43.5	13.0	13.0
全体(1240名)	4.7	8.6	31.5	44.8	34.8	11.6	46.5	7.2	1.5

a) 1. (意欲的)な医師の割合

B臨床研修病院>D大学>C臨床研修病院>E大学>A大学

b) 1-3. (意欲的+肯定的)な医師の割合

C臨床研修病院>D大学>E大学>B臨床研修病院>A大学

a) 2×2表での分析[意欲的] (6. わからないおよび無回答を除く)

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)	(意欲的) / [(意欲的)+(それ以外)] (%)
A大学病院	7	218	3.11
B研修病院	9	124	6.77
C研修病院	9	168	5.08
D大学病院	13	203	6.02
E大学病院	19	345	5.22
不明	1	16	5.88
計	58	1074	5.12

いずれの施設間にも有意差なし。

b) 2 × 2 表での分析 [意欲的+肯定的]

	(意欲的+肯定的) (1-3)	消極的 (4-5)	(意欲的+肯定的) / [(意欲的+肯定的)+(消極的)](%)
A大学病院	92	133	40.89
B研修病院	62	71	46.62
C研修病院	105	72	59.32
D大学病院	111	105	51.39
E大学病院	179	185	49.18
不明	7	10	41.18
計	556	576	49.12

	意欲的+肯定的	消極的
A大学附属病院	92	133
C臨床研修病院	105	72

(両側検定) $P = 0.00029$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

	意欲的+肯定的	消極的
A大学附属病院	92	133
D大学附属病院	105	72

(両側検定) $P = 0.00029$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

	意欲的+肯定的	消極的
B臨床研修病院	62	71
C臨床研修病院	105	72

(両側検定) $P = 0.02911$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

	意欲的+肯定的	消極的
C臨床研修病院	105	72
E大学附属病院	179	185

(両側検定) $P = 0.02797$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

C臨床研修病院は、A大学附属病院、B臨床研修病院、E大学附属病院に対して有意に高い。

D大学附属病院は、A大学附属病院に対して有意に高い。

(2) 出身大学別 [%]

《出身大学別》	1. 解決 しなくとも 赴任したい (意欲的)	2. 積極 的に赴任 したいと 思う	3. 上記 以外の課 題が解決 したら、 良い	1-3. (意欲的 + 肯定的)	4. あま り赴任し たくない	5. 絶対 に赴任し たくない	4+5. (消極的)	6. わか らな い	無回答
A大学(207名)	2.9	6.3	29.5	38.6	41.1	13.5	54.6	6.3	0.5
B´大学(70名)	2.9	4.3	20.0	27.1	51.4	12.9	64.3	7.1	1.4
C´大学(98名)	3.1	11.2	38.8	53.1	31.6	9.2	40.8	6.1	0.0
D大学(178名)	6.2	6.2	36.0	48.3	35.4	7.3	42.7	7.3	1.7
E大学(106名)	13.2	16.0	30.2	59.4	23.6	4.7	28.3	11.3	0.9
その他(528名)	3.8	9.8	31.6	45.3	33.1	13.6	46.8	6.8	1.1
無回答(53名)	3.8	0.0	28.3	32.1	32.1	15.1	47.2	7.5	13.2
全体(1240名)	4.7	8.6	31.5	44.8	34.8	11.6	46.5	7.2	1.5

注) B´大学およびC´大学はそれぞれB臨床研修病院とC臨床研修病院の地元にある大学

a) 1. (意欲的)な医師の割合

E大学>D大学>その他>C´大学>B´大学>A大学

b) 1-3. (意欲的+肯定的)な医師の割合

E大学>C´大学>D大学>その他>A大学>B´大学

a) 2×2表での分析[意欲的] (6. わからないおよび無回答を除く)

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)	(意欲的) / [(意欲的)+(それ以外)] (%)
A大学	6	187	3.11
B´大学	2	62	3.13
C´大学	3	89	3.26
D大学	11	151	6.79
E大学	14	79	15.05
その他	20	466	4.12
不明	2	40	4.76
計	58	1074	5.12

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)
A大学	6	187
E大学	14	79

(両側検定) P = 0.00042 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)
B´大学	2	62
E大学	14	79

(両側検定) P = 0.01584 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)
C´大学	3	89
E大学	14	79

(両側検定) $P = 0.00909$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)
D大学	86	76
E大学	63	30

(両側検定) $P = 0.02510$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)
E大学	14	79
その他	20	466

(両側検定) $P = 0.00026$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

E大学は、D大学・その他・C´大学・B´大学・A大学に対して、「困難な事柄が解決しなくてもへき地に赴任したい」とするへき地勤務に意欲的なものが有意に高い。

b) 2 × 2表での分析 [意欲的+肯定的]

	(意欲的+肯定的) (1-3)	消極的 (4-5)	(意欲的+肯定的) / [(意欲的+肯定的)+(消極的)](%)
A大学	80	113	41.45
B´大学	19	45	29.69
C´大学	52	40	56.52
D大学	86	76	53.09
E大学	63	30	67.74
その他	239	247	49.18
不明	17	25	40.48
計	556	576	49.12

	(意欲的+肯定的)	消極的
A大学	80	113
C´大学	52	40

(両側検定) $P = 0.02201$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

	(意欲的+肯定的)	消極的
A大学	80	113
D大学	86	76

(両側検定) $P = 0.03282$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

	(意欲的+肯定的)	消極的
A大学	80	113
E大学	63	30

(両側検定) $P = 0.00005$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

	(意欲的+肯定的)	消極的
B´大学	19	45
C´大学	52	40

(両側検定) $P = 0.00109$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

	(意欲的+肯定的)	消極的
B´大学	19	45
D大学	86	76

(両側検定) $P = 0.00180$ 有意水準 1% で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

	(意欲的+肯定的)	消極的
B´大学	19	45
E大学	63	30

(両側検定) $P < 0.00001$ 有意水準 1% で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

	(意欲的+肯定的)	消極的
D大学	86	76
E大学	63	30

(両側検定) $P = 0.02510$ 有意水準 5% で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

	(意欲的+肯定的)	消極的
B´大学	19	45
その他	239	247

(両側検定) $P = 0.00334$ 有意水準 1% で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

	(意欲的+肯定的)	消極的
E大学	63	30
その他	239	247

(両側検定) $P = 0.00142$ 有意水準 1% で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

- へき地勤務に「意欲的+肯定的」なものの割合は、
B´大学は、「その他」に対して有意に低い。
C´大学は、A大学・B´大学に対して有意に高い。
D大学は、A大学・B´大学に対して有意に高い。
E大学は、D大学・A大学・B´大学、「その他」に対して有意に高い。

(3) 新研修制度該当者別 [%]

《新研修制度該当者別》	1. 解決 しなくとも 赴任し たい (意欲的)	2. 積極 的に赴任 したいと 思う	3. 上記 以外の課 題が解決 したら、 良い	1-3. (意欲的 + 肯定的)	4. あま り赴任し たくない	5. 絶対 に赴任し たくない	4+5. (消極的)	6. わか らな い	無回答
該当者(376名)	7.7	12.2	31.9	51.9	32.7	8.5	41.2	5.6	1.3
指導医(756名)	3.3	7.4	31.6	42.3	36.4	12.7	49.1	7.7	0.9
無回答(108名)	3.7	4.6	29.6	38.0	31.5	14.8	46.3	9.3	6.5
全体(1240名)	4.7	8.6	31.5	44.8	34.8	11.6	46.5	7.2	1.5

a) 2×2表での分析[意欲的] (6. わからないおよび無回答を除く)

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)	(意欲的) / [(意欲的)+(それ以外)](%)
該当者(376名)	29	321	8.3
指導医(756名)	25	666	3.6
無回答(108名)	4	87	4.4
全体(1240名)	58	1074	5.1

	1. (意欲的)	1. 以外(2-5)
該当者	29	321
指導医	25	666

(両側検定) $P = 0.00182$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

新臨床研修制度該当者は指導医にくらべて、「困難な事柄が解決しなくてもへき地に赴任したい」とするへき地勤務に意欲的なものが多い。

b) 2×2表での分析 [意欲的+肯定的]

	(意欲的+肯定的) (1-3)	消極的 (4-5)	(意欲的+肯定的) / [(意欲的+肯定的)+(消極的)](%)
該当者(376名)	195	155	55.7
指導医(756名)	320	371	46.3
無回答(108名)	41	50	45.1
全体(1240名)	556	576	49.1

	(意欲的+肯定的)	消極的
該当者	195	155
指導医	320	371

(両側検定) $P = 0.00476$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

新臨床研修制度該当者は指導医にくらべて、へき地勤務に「意欲的+肯定的」なものが多い。

(4) 卒後年数別 [%]

《卒後年数》	1. 解決 しなくとも 赴任し たい (意欲的)	2. 積極 的に赴任 したいと 思う	3. 上記 以外の課 題が解決 したら、 良い	1-3. (意欲的 + 肯定的)	4. あま り赴任し たくない	5. 絶対 に赴任し たくない	4+5. (消極的)	6. わ から ない	無回 答
卒後1～2年(139名)	14.4	15.8	32.4	62.6	25.9	3.6	29.5	5.8	2.2
卒後3～5年(175名)	2.9	10.9	34.9	48.6	34.3	12.0	46.3	4.0	1.1
卒後6～15年(462名)	4.3	8.2	32.7	45.2	35.7	14.3	50.0	4.5	0.2
卒後16年以上(356名)	2.5	6.5	28.7	37.6	38.5	10.1	48.6	12.1	1.7
無回答(108名)	3.7	4.6	29.6	38.0	31.5	14.8	46.3	9.3	6.5
全体(1240名)	4.7	8.6	31.5	44.8	34.8	11.6	46.5	7.2	1.5

a) 1. (意欲的)な医師の割合

卒後1～2年>卒後6～15年>卒後3～5年>卒後16年以上

b) 1-3. (意欲的+肯定的)な医師の割合

卒後1～2年>卒後3～5年>卒後6～15年>卒後16年以上

a) 2×2表での分析[意欲的] (6. わからないおよび無回答を除く)

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)	(意欲的) / [(意欲的)+(それ以外)](%)
卒後1～2年	20	108	15.6
卒後3～5年	5	161	3.0
卒後6～15年	20	420	4.5
卒後16年以上	9	298	2.9
無回答	4	87	4.4
全体	58	1074	5.1

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)
卒後1～2年	20	108
卒後3～5年	5	161

(両側検定) P = 0.00013 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)
卒後1～2年	20	108
卒後6～15年	20	420

(両側検定) P = 0.00007 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

	1. (意欲的)	それ以外(2-5)
卒後1～2年	20	108
卒後16年以上	9	298

(両側検定) P = 0.00001 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

卒後1～2年の医師は「困難な事柄が解決しなくともへき地に赴任したい」とするへき地勤務に意欲的なものが多く、卒後3～5年、卒後6～15年、卒後16年以上の群との間に有意な差が認められた。上記以外に有意差は認められなかった。